

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

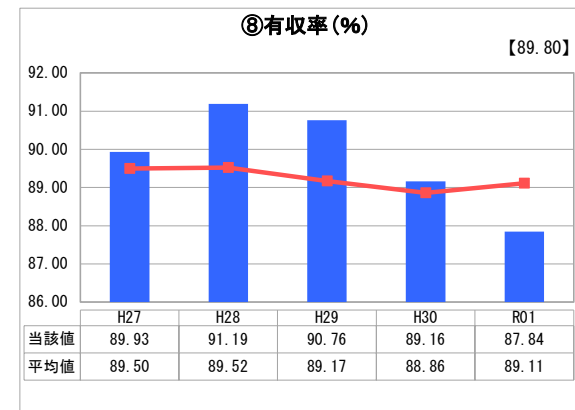
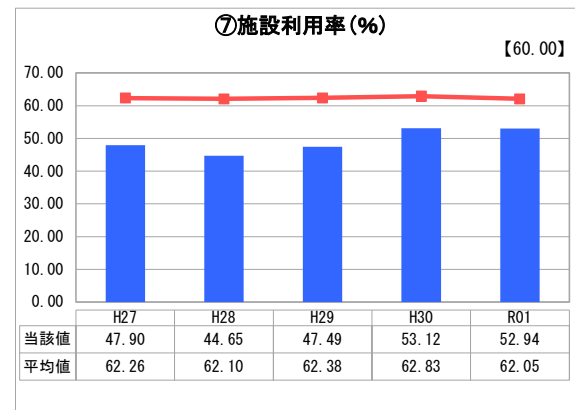
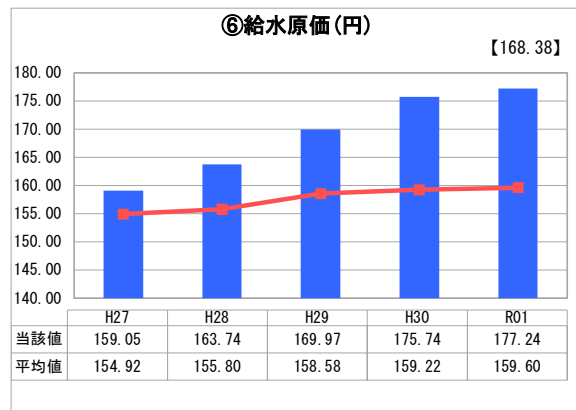
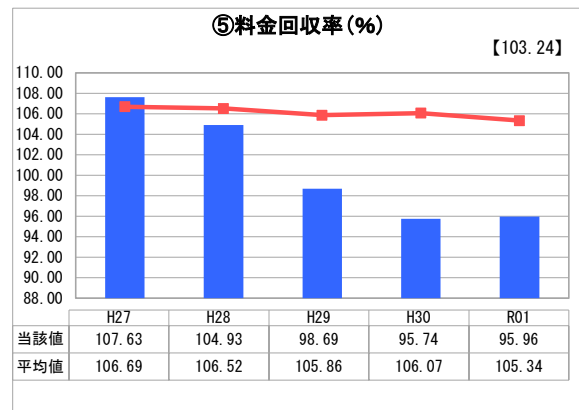
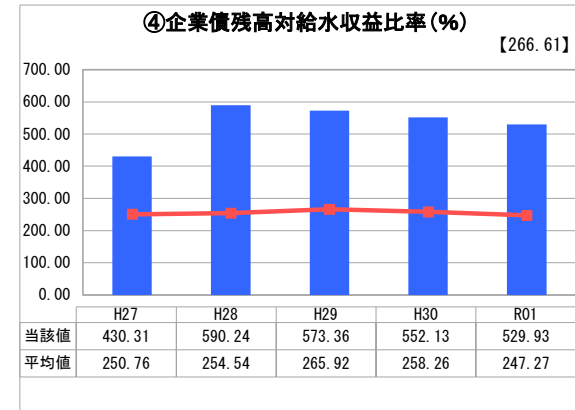
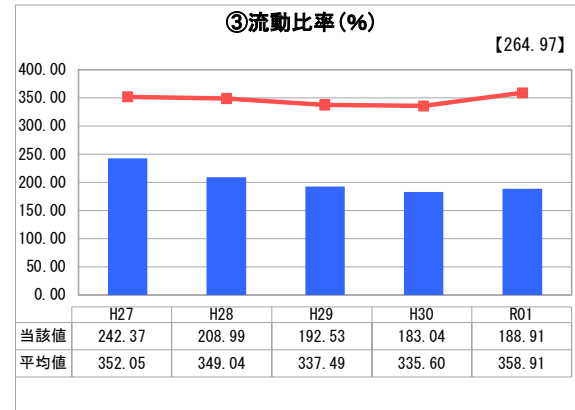
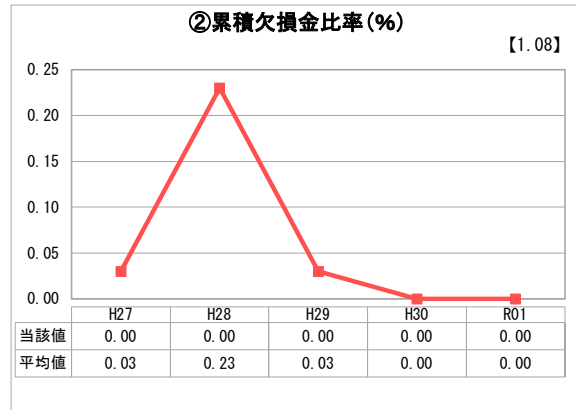
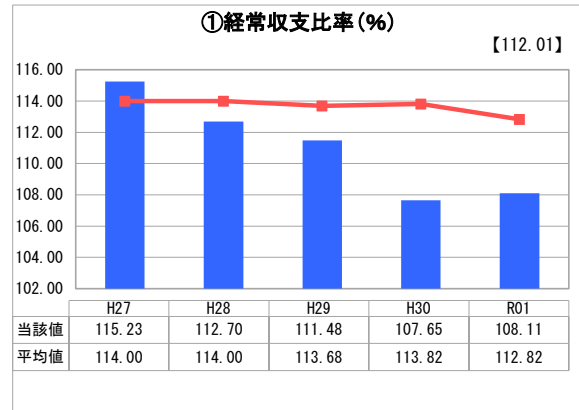
山口県 周南市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	57.78	91.11	2,893	

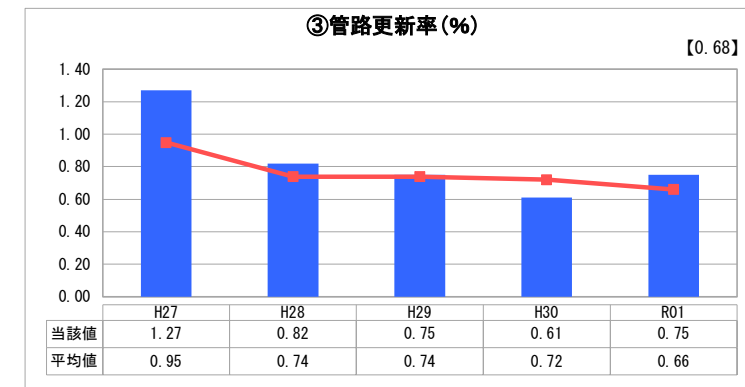
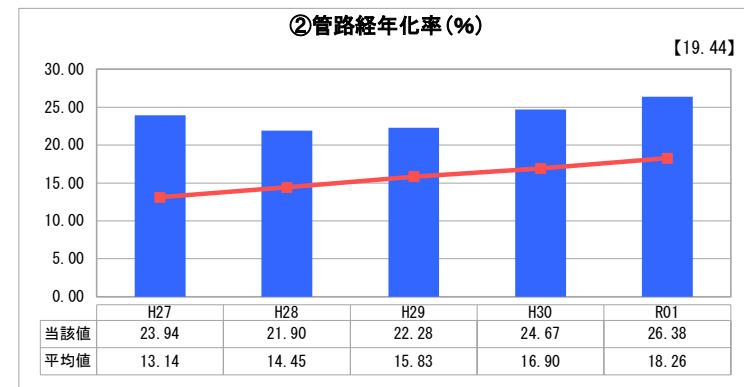
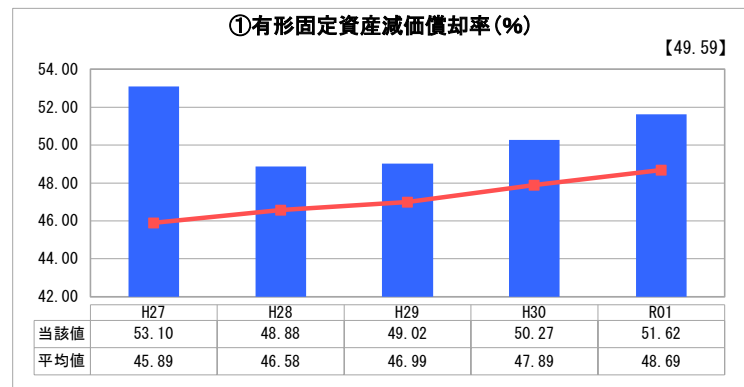
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
142,482	656.29	217.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
129,206	98.70	1,309.08

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率  
類似団体平均値を下回っているが、100%を上回っており経営状況は健全な水準にある。

② 流動比率  
100%を上回っており健全な経営状態である。類似団体平均値と比較すると下回っているが、200%近い数値であるため、支払能力に問題はない。

③ 企業債残高対給水収益比率  
類似団体平均値と比較すると大幅に高い。合併等により複数の浄水場及び水源を有し、平成28年度末に熊毛地区水道事業、鹿野簡易水道事業を水道事業に統合したため、企業債残高が大幅に増加した。内部留保資金を活用して借入額を調整し、残高の減少に鋭意取り組んでいる。

④ 料金回収率  
給水人口も少なく経営基盤の脆弱な簡易水道事業等の統合に伴い、維持管理費用等の増加により給水原価が高くなる一方で、料金収入の減少により供給単価がそれ以上に上がらなため、類似団体平均値かつ100%を大幅に下回っている。

⑤ 給水原価  
類似団体平均値と比較すると大幅に高い。熊毛地区水道事業統合等により複数の浄水場と水源を有していることに伴う維持管理費用等の増加及び節水意識の浸透等による有収水量の減少により給水原価が高くなっている。

⑥ 施設利用率  
類似団体平均値と比較すると低い。配水量が平成4年度をピークに大幅に減少し続けて施設利用率が低かったが、一ノ井浄水場の浄水処理を中止し、菊川浄水場の給水ブロックに統合することで施設の有効利用が図られた。

⑦ 有収率  
漏水による無効水量が大幅に増加したことにより、前年に比べ減少するとともに類似団体平均値を下回った。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、施設が古いため、有形固定資産減価償却率が高い傾向にある。

② 管路経年化率  
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、老朽管が多いため、管路経年化率が高い傾向にある。

③ 管路更新率  
限られた財源の中で老朽管更新工事を毎年鋭意進めてきたことにより類似団体平均値と比較すると若干上回っているが、管路経年化率も高く、管路の経年化に追いついていない状況である。

## 全体総括

現状における経営状況は、比較的良好である。ただし、類似団体平均値と比較すると次の3点において課題があるため、対策を進めていく。

① 企業債残高の削減  
平成22年度末残高133億円から平成27年度末残高106億円と着実に企業債の削減を進めてきたが、熊毛地区水道事業等の統合に伴い、平成29年度末残高151億円と大幅に増加した。令和元年度末残高は138億円を着実に減っているが、今後も内部留保資金及び借入額を考慮しながら借入額を調整し、引き続き残高の削減に努める。

② 施設維持管理費の抑制  
合併及び熊毛地区水道事業等の統合により維持管理費等の経費が増大しており、仕様、発注方法等更なる見直しを図り、費用抑制に努めていく。

③ 老朽化対策  
これまで耐震化事業を大幅に進めてきたが、管路経年化率の上昇に追いついていない状況である。今後も、財政状況を踏まえながら、優先度の高い重要箇所を中心に管路の更新を進めていく。